

# 顔の見える安心できる社会に

## 地域社会で生きる

私たちは普段、さまざまな「社会」の中で生活しています。会社や学校、趣味のサークル活動など。住んでいる地域での人間関係もその一つです。このような「社会」の中には人と人とのつながりがあり、時には協力して課題や困難を乗り越えています。

## 薄れる地域のつながり

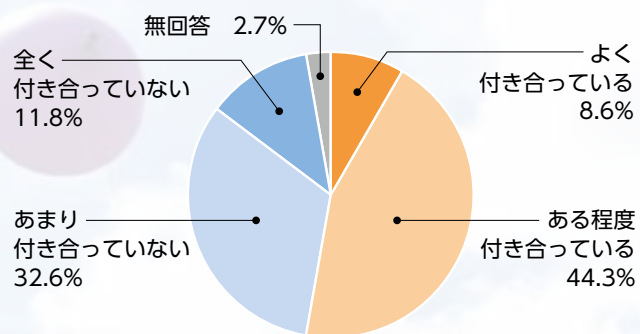
令和5年に内閣府が行った社会意識に関する世論調査によると「地域での付き合いは必要ない」と答えた人は0・6パーセントでした。多くの人はあいさつをしたり、世間話をしたり、地域の行事に参加したりして、地域での付き合いを築くことを望んでいることが分かります。(図1)

一方、同調査で、地域での付き合いを「全く付き合いっていない」「あまり付き合いっていない」と答えた人は44・4パーセント(図2)。多くの人が地域のつながりが必要と思っているにもかかわらず、関係性を築くことができていないようです。

本市でも自治会の加入率は年々減少していて、令和元年度には49・4パーセントと半数を切りました。

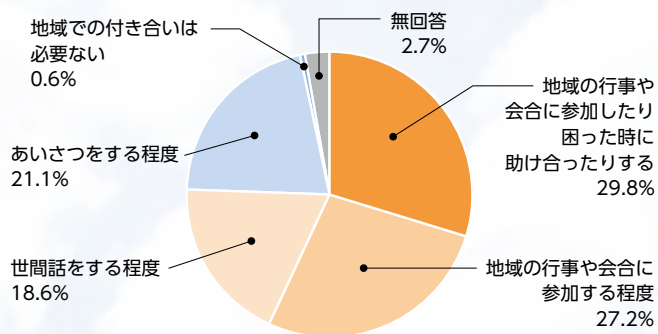
どのようにしたら地域でのつながりを築くことができるのでしょうか。今回の特集では、地域を盛り上げ人々をつなぐ人たちや、地域の中で新たなつながりを築いた人たちを通して、そのヒントを探ります。

地域での付き合いをどの程度しているか (図2)



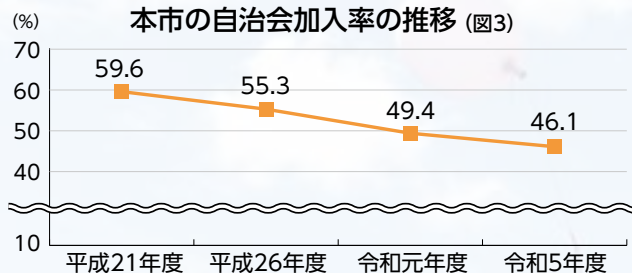
(出典) 内閣府「社会意識に関する世論調査(令和5年11月調査)」

地域での付き合いはどの程度が望ましいか (図1)



(出典) 内閣府「社会意識に関する世論調査(令和5年11月調査)」

本市の自治会加入率の推移 (図3)





## 第1章

# 地域のつながりはなぜ必要か

あらゆる情報はスマートフォンから手に入り、娯楽にあふれ、大抵のことは一人でも困らない時代。地域のつながりはなぜ必要なのでしょう。

### 安心・安全の鍵は地域のつながり

悩み事や困り事ができた時、近くに頼れる人はいますか。自分や家族の暮らしの安心は、一人で作ることではできません。不安を解消したり、気持ちに寄り添ってくれたりするのは、地域の人とのつながりです。

住民同士の交流が活発な地域では、不審者や近所の異変に気付きやすく、犯罪が起きにくい傾向にあるといわれています。地域の人と密接な関係が築けていれば、日々の暮らしはより安心・安全なものになるでしょう。

また、災害が発生した時に大事なのが自助・共助・公助が連携すること。自助とは自分の身を自分で守ることで、公助とは支援物資の提供などの公的支援のことです。そして、共助とは地域の人々が助け合うこと。日頃から、近所にとどのような人が住んでいるのかを知り、信頼関係を築いておくことで、

一人では乗り越えられない困難も、力を合わせて乗り越えることができるでしょう。

### 顔を知りあいさつすることが最初の一步

では、地域のつながりを築くには、どのようにしたら良いのでしょうか。

まずは顔を知ること、あいさつをすることです。ごみ集積所で。近くの公園で。バス停で。近所の人と顔を合わせることもあるかもしれません。まずは、その人にあいさつをすることから始めてみませんか。

また、地域の祭りや行事に参加することも、つながりを作るきっかけになります。楽しんでいる時は開放的な気分になり、いつもよりスムーズにコミュニケーションが取れるという人は多いのではないのでしょうか。普段の生活でつながりを築くのが難しいという人は、そのような場に足を運んでみるのも良いかもしれません。

公園内を元気に駆け回る



①②③大勢の人でにぎわう公津フェスタ ④⑤道行く人の目を引くイルミネーション



ひかり輝け!公津商店会  
会長  
いし い たける  
石井 武さん

## 顔を知っているって大きい

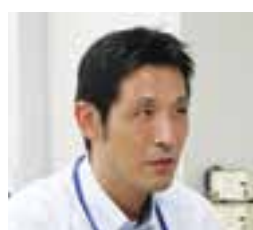
公津商店会は市内の約120店舗からなる団体で、ひかり輝け!公津フェスタや公津の杜駅前イルミネーションなど、地域に密着したイベントを主催しています。

地域のつながりは希薄化させてはいけないものだと思います。災害はいつ起こるか分からないし、いつ自分に助けが必要になるか分かりません。そうした時に、顔の知れた頼れる存在がいることは、私たちに安心感を与えてくれます。「困った時はお互いさま」と助け合うことができる地域になるためには、顔の見える関係を築くことが大

切だと思います。

地域のイベントは、そこに住む人が顔を合わせ、知り合いになるきっかけの場だと思います。参加することで、住民同士が顔見知りになり、交流を持つ。顔見知りになれば自然とあいさつができるものです。私たちが主催するイベントは、そういった地域のつながりを築く場になっていると感じています。

人と人との交流が深まると、まち全体が明るくなります。これからも私たちの行うイベントが、地域のことを知り、人と人がつながるきっかけになるとうれしいです。



成田警察署 生活安全課  
課長  
たかまつ ちひろ  
高松 千尋さん

安心できる暮らし  
コミュニティの絆が  
地域を安全に

顔の見える関係が築かれていることで、詐欺の手口や不審者などの情報共有、地域の人同士による見守りが期待でき、事故や犯罪が起きにくくなります。姿を見ないという近所の人の通報で、熱中症で倒れているのを発見され、命が救われたこともあります。

また子どもたちに何かあった時、家族以外に助けを求められる存在がいることはとても心強いです。近所のおじさんなど、知っている人の方が、声を掛けやすいでしょう。地域の中に顔見知りの関係を築いておくことは、自分や家族を守る上で、大切なことです。

現役大学生が自治会長  
若者こそ  
地域との関わりを



ウィーンズタウン自治会  
前会長  
みうら そら  
三浦 大空さん

大学に通いながら、自治会長を務めました。若者が自治会長をやっていることで、これまでは会長一人が抱えていたであろう困り事などを、周囲の人が心配して助けてくれました。この経験から地域の人の温かさを知ったと同時に、若い人が地域活動に参加することは、周囲の人を巻き込むきっかけになると感じました。大学生などの若者は地域とのつながりが薄いと思います。地域の温かさとか、大学生でもできるということを同世代の人にもっと知ってもらい、地域の人と関わりを持ってみようかなという人が増えたらいいなと感じています。



## 第2章 人々を結び 顔の見える関係をつくる

本章では、さまざまな立場や役割で地域交流を活性化させている人たちを紹介します。





一人一人にあいさつ

## 見守りから広げる小さな信頼



子どもたちを遠くから見守る

子どもたちに、安全に通学してもらいたいという思いで、見守り活動を行っています。

子どもたちの登校を見守りながら交わすあいさつが、私の元気の源です。中には、あいさつが苦手という子もありますが、毎朝顔を合わせるうちに徐々に心を開いてくれ、「おはようございます」と返してくれた時はとてもうれしい気持ちになります。学年が上がると「よっぺさん」と親しみを込めたあだ名で呼んでくれる子どもも。6年間顔を合わせた子どもたちとは、卒業後もあいさつし合える関係になっています。この活動は、私と子どもたちとの間に、信頼関係を築いてくれていると感じています。

活動を続けて12年目になります。継続できているのは、私の生きがいになっているから。これからも小さな信頼関係を少しずつ地域に広めていきたいです。



公津小学校 地域コーディネーター  
さいとう よしのり  
齊藤 好徳さん



顔を合わせるのは週1回のお楽しみ



近所の人がそろって買い物に

生活支援コーディネーターは、高齢者の日常の困り事や悩み事を把握し、解決に向けた地域のネットワークづくりなどを行う調整役です。主に買い物支援や、なりたいいきいき百歳体操のグループ立ち上げのお手伝いをしています。

買い物支援では、地域のニーズに応じて、軽トラックによる移動販売車の販売場所の確保を行っています。移動販売には、買い物困窮者を支援するだけでなく、近所の人との交流の場や地域の見守りとしての役割もあります。地域のニーズに応じて調整した販売場所で新たな交流が生まれ、利用者同士が笑顔で話している様子を見ることができた時は、とてもやりがいを感じます。

目標は、近所の仲間同士で声掛けや見守りができる、支え合いの地域を築くこと。これからも地域のニーズを把握して、形にしていきたいです。



生活支援コーディネーター  
ほそだ やすゆき  
細田 恭之さん

## 支え合いの地域をつなぐ調整役

# 誰でも自由に楽しくいられる場所に



成田スポーツアカデミー  
理事長  
なかや じゅんこ  
中谷 絢子さん

家庭や本人の事情にかかわらず、誰でも気軽に参加できる居場所を作りたいという思いで、成田スポーツアカデミーを設立しました。

クラブでは、サッカーやスポーツ鬼ごっこを中心に、子どもも大人も一緒になって体を動かしています。中には、障がいのある子どもや学校になじめない子どもも活動しています。そうした子どもたちが一緒に汗を流し、楽しかったと言って帰る姿を見た時は、とてもうれしい気持ちになります。

会場にはいつもにぎやかな声が響いていて、自由に垣根のないクラブだからこそ、安心して通える場になっていると感じています。目指すのは「田舎のおばあちゃんち」のような、いつでも帰って来られる安心できる居場所。このクラブが、参加者にとって無理せず、楽しくいられる居場所になってほしいです。

## 活動に参加するには

活動日や活動内容などの詳細は、ホームページから確認できます。



成田スポーツアカデミー  
ホームページ



子どもたちと一緒に汗を流す



大人も子どもも和気あいあいと



柴田いきいきクラブ  
リーダー  
なる け かつゆき  
成毛 克之さん

地域で交流できる機会が欲しいと思い、なりたいいきいき百歳体操のグループを集会所に立ち上げました。

活動を始めたことにより、生活が明るく、楽しくなりました。同じ地域に住んでいても顔を合わせないと、遠慮して声が掛けづらくなるもの。今では週1回顔を合わせていることもあり、活動以外でもコミュニケーションを取る機会が増えました。姿を見かけない時は、心配になって家まで声を掛けに行くようになりました。活動日には集会所の近くに住んでいる人にも声を掛けるようにしていて、これは地域のちょっとした見守りにもつながっていると感じています。

自分が元気になるだけではなく、地域に貢献していくことが私たちの生きがいでもあります。これからも楽しく活動を続けて、地域に貢献していきたいと思います。

## 活動に参加するには

成田市社会福祉協議会  
(☎27-7755)または住んでいる地域の地域包括支援センターへ。



椅子に座りながらゆっくりと



休憩中は笑いが絶えない

# 顔を合わせると楽しい



山車の整備方法を次の世代に伝える

## 伝統が紡ぐ人の縁



勢いよく駆け上がる

家業を継ぐために成田へ戻ってきた時、子どもの頃に慣れ親しんでいた祭りに携わりたという思いで幸町幸若連に入りました。

私にとって、祭りの魅力は「縁」です。祭りなどの伝統は担い手がいないと、いつかなくなってしまうもの。大変なこともあります。そこでは自分たちが伝統を継承し、地域を盛り上げるといった思いをもった多世代の人が関わっています。当日を迎えるまでには多くの準備がありますが、同時に、同じ志を持った人同士の助け合いがあります。こうして築かれた信頼関係は、仕事などでは得られないものです。

山車が表参道の坂を一気に駆け上がる瞬間は、まさに地域が一つになっている瞬間であり、祭りの醍醐味。この達成感と充実感は祭りに携わってみたいと感じることができない特別なものです。これからも祭りの縁を大切に、地域を盛り上げていきたいです。



幸町幸若連 令和6年度 若者頭  
はやしだ たくみ  
林田 拓三さん



タブレット端末一つで回覧板を



活発な意見が飛び交う役員会議

会員や役員の負担を軽減しなければ、自治会の存続が難しいと考え、電子メールを活用した電子回覧板を導入しました。会員からは「煩わしさから解放された」「留守にしているも安心」と言われています。また、情報をすぐに届けられるのも大きなメリットです。

さらに、私たちの自治会では、全世帯がメールを受信できる環境が整ったので、防災訓練の方法を見直しました。災害時に開放される公衆無線LANサービスの利用を想定して、安否確認メールを一斉送信する方法にしました。そのほかにも災害対策の呼び掛けやペットの搜索依頼も電子回覧板で行っています。

回覧板などの電子化は、地域のつながりを強くするのとは相反することに見えるかもしれませんが、工夫して使えば、本当に必要なつながりをより強くすることができると思っています。



公津の杜第1自治会 会長  
ほしの よしかず  
星野 義一さん

## DXでより強固なつながりを

# 地域の輪に参加してみよう

市内では、さまざまな形でコミュニティ活動が行われています。その活動の輪に参加することで自然と地域の人々とのつながりを築くことができます。本章では、市内にあるコミュニティ活動の場と、その参加方法を紹介します。

## 住みよいまちを

### 自分たちで維持する区や自治会

地域に住む人たちが力を合わせて活動する区や自治会。活動内容は地域によってさまざまですが、一例を挙げると次のようなものがあります。

- ごみ集積所の設置・維持管理
- ごみ拾いやリサイクル活動
- 防犯パトロール活動
- 祭りやお楽しみ会などのイベントの開催

このような区や自治会の活動に参加すると、住みよい地域づくりができるとともに、地域とのつながりを自然と築くことができるでしょう。

## 共通の話題がつながりを育む

### 地域のコミュニティ活動

市内には趣味や娯楽を楽しめる、さまざまな場があります。

例えば公民館のサークル活動。市内には13の公民館があり、全体で460を超えるサークルが活動しています。絵画や音楽などの芸術活動を楽しむサークルのほか、ダンスや体

操などの体を動かすサークルもあり、活動内容はさまざまです。自分が好きなことを楽しみながら、地域のつながりを広げていくことができます。

生涯大学院では、成田の歴史や健康、文学などに関する一般教養と、書道・園芸・陶芸などから一つの専門講座を学ぶことができます。市に住民記録があり、4月1日時点で60歳以上の3年間通学できる人という条件はありますが、毎年多くの人が入学して一緒に学びを深めています。

子育て世帯の強い味方が「なかよしひろば」。子ども館・三里塚コミュニティセンター・もりんぴあこづの3カ所に設置しています。0歳児から未就学児までが伸び伸び遊べる広いスペースがあるほか、季節に合わせたさまざまな催しが企画されています。一緒に遊ぶ子ども同士が仲良くなることはもちろん、保護者同士の会話が弾んでいる様子も見られます。

また、企業の中には、積極的に地域貢献している企業もあります。そのような企業の人と信頼関係を築くこともまた、住みやすいまちづくりにつながるでしょう。

子ども山車を曳き廻す橋賀台二丁目町内会の皆さん



## なかよしひろば



さいとう  
齋藤 えりなさん

### 独りの不安を解消

引っ越してきた当初、近所に知り合いがおらず心細い思いをしていましたが、なかよしひろばで知り合ったお母さんと仲良くなることができました。悩みを共有できる人が近くにいと心強いです。

#### なかよしひろばに参加するには

参加を希望する人は直接会場へ。開館時間や催し物などの詳細は、市ホームページで確認できます。



市ホームページ



ゆったりとした雰囲気

## 区や自治会

### パパ友が増えました

近所の人に声を掛けてもらい加入しました。祭りなどで、パパ友が増えて、子育ての情報を教えてもらったり、家の前や公園で遊んでいる子どもを見てもらったり。いろいろと助かっています。



はなのき台自治会  
みなみ たくや  
南 拓弥さん

#### 区や自治会に加入するには

区や自治会の活動内容をくわしく知りたい場合や加入を希望する場合は、住んでいる地域の区や自治会に相談してください。

自分が住んでいる地域の区や自治会、その連絡先が分からない場合は、市民協働課(市役所2階 ☎20-1507)へ連絡してください。



イベントを通じて交流

## 生涯大学院



生涯大学院3年生  
かたの よしお  
片野 善夫さん(右)  
おりと ひろし  
折戸 浩さん(左)

### 退職後にできた友人

退職を機に入学しました。近所に住んでいることもあり、授業の日には、折戸さんに送迎をしてもらっています。時にはショッピングモールへ送ってもらうこともあり、頼りになる人が近くにいて、とても助かっています。

#### 生涯大学院に入学するには

毎年3月に新入生を募集しています。活動の様子などは市ホームページで確認できます。



市ホームページ



講義中も和気あいあいと

## サークル活動

### エイサー中心の生活に

成田太鼓祭で華やかに踊っている姿を見て、子どもがやってみたいというので親子で加入しました。初対面だったメンバーとも、回を重ねるごとに仲良くなり、今では毎週の活動で顔を合わせるのが楽しみになっています。



成田エイサー美ら海会  
ふじもと  
藤本 ひかるさん  
わく  
湧くん

#### サークル活動に参加するには

まなび&ボランティアサイトでは、住んでいる地域で活動しているサークルや、コミュニティ活動などを検索できます。



息を合わせてばっちり



まなび&ボラン  
ティアサイト

## 企業の取り組みも



成田国際空港(株)  
地域共生部 共生企画グループ  
そが べしろうご  
曽我部 尚悟さん

### 地域の一員として

私たちは地域と共生共栄する企業として、周辺市町のさまざまな行事に参加・協賛しています。例えば、成田祇園祭では、今年も多くの若手社員が雑踏整理などの運営に携わりました。参加者は観客とは違ったお祭りの姿を見ることができ、さらにはお祭りを地域と一緒に作り上げているという喜

びを感じることができました。

地域行事への参加は、地域と空港との絆を深める上で、極めて大切なことだと考えています。成田空港のことを多くの人に知ってもらただけでなく、私たちも地域のことをさらに知るきっかけにもなっています。これからもさまざまな行事やイベントに参加し、人々との交流を通じて地域と成田空港との関係を深めていきたいです。

# 安心の基盤は人とのつながり

いざという時に  
支え合えるつながりを

核家族化やライフスタイルの多様化により、地域のつながりが薄れている一方で、激甚化・頻発化する自然災害に対応するために地域が果たす役割はますます重要になっています。

災害時には、個人や家族の力だけでは限界があります。いざという時に備え、隣近所や地域の人々で支え合える基盤を築いておくことはとても重要です。

持続可能な  
コミュニティであるために

地域の防災・防犯活動や見守りなどで中心的な役割を担っているのは、区や自治会です。皆さんは区や自治会にどのようなイメージを持っていますか。「負担が大きい」という人もいるかもしれませんが。

しかし、現在はオンラインで会議を行ったり、スマートフォンを通して回覧板を回したりして、できる限り役員や会員の負担を軽減するところが増えています。社会全体として、地域活動にデジタル技術を活用する動きは一層加速していくでしょう。

自治会は、身近で頼れる存在です。まだ加入し

ていないという人は、ぜひ加入を検討していただきたいと思います。

顔の見える関係が  
暮らしの安心に

地域の人の顔が見え、困った時に支え合える関係性は、なくなつてはいけないものだと思います。地域の中で解決できることはたくさんあります。

隣近所や地域と関わるのは煩わしい、地域のつながりなんて必要ないと思う人もいるかもしれませんが。しかし、自分や家族が安心して暮らせる環境は一人では作れません。地域や人との支え合いがあつて成り立つものです。

成田の強みは伝統行事

成田市は伝統的な行事が盛んなまちです。そういった行事は地域のつながりを維持していく上で強みになると思います。子どもの頃から山車や屋台、御輿に触れて、大人になったら「今度は自分たちがやらなきゃ」と思ってくれたら、どんな循環して、地域のつながりを維持していけると思っています。

できる時に、できることから地域とのつながりを作る一歩を踏み出してみてください。その一歩が、きっとあなたや家族、そして地域の未来を明るくしてくれます。



連綿と受け継がれる

成田市区長会  
会長

むらしま よしのり  
**村島 義則さん**

土屋区区长、市区長会副会長を経て、令和6年に市区長会会長に就任。昭和51年に消防団へ入団し、平成25年から7年にわたり市消防団長を務めた。また成田山車まつりでは、初開催となった平成16年から引き続き事務局長を務める。市スポーツ協会での活動や青年会議所運動など、分野を問わずさまざまな活動を通して地域に貢献している。





## 特集の終わりに

「いつてらっしゃい」「おかえり」。私が小学生の時、通学路には畑を耕す農家の人や店の前で作業をする地域の人がいて、あいさつを交わすのが日常でした。学校を休んだ翌日には、昨日はどうしたの?と気にかけてくれたことも。安全に通学ができていたのは地域の見守りがあったからなのだと思います。人や地域のつながりが薄れている昨今、地域が持つ力を改めて考えてほしいという思いを込めて、「地域のつながり」をテーマに取り上げました。

地域のために活動する人々を取材する中で、きっかけやその思いを語る皆さんのまなざしからは、このまちをよくしていきたいという強い意思を感じました。

「地域のひととの交流が増えると、互いが他人ではなくなってきた、大切な存在になる。それは次第に、このまちを良くしていくにはどうしたらいいだろうと考えるきっかけになる」。これは取材で印象に残っている言葉の一つ。地域を支える基盤はやはり人と人とのつながりなのだと感じました。

隣近所の人とあいさつをすることからでも、地域とのつながりは生まれます。それは自分や家族のためでもあり、地域の未来のためでもあります。この特集がきっかけとなり、地域との関わりを持ってみようと感じる人が一人でも増えることを願っています。